

洛西だより



竹の子

令和8年6月1日発行
京都市立洛西中学校
文責：校長 小林 鉄男
第3号

「自立・貢献・夢さがし」～自信と誇りをもって、自らの未来を切り拓く、たくましい生徒を育てる～



「良い問い」を見つける学習活動を通して

「考える力」をつける探究活動のために！

時代の変化を感じさせるニュースが次々と報道されています。昨年から日本全国（九州・沖縄地方を除く）で、一気に増加したクマからの被害を未然に防ぐために、何千ものクマの体形やクマの顔の画像を学習させたAIをドローンに装着して、そのドローンをクマが出没する街に隣接している山々に飛ばし、上空からどこにクマが何頭いるかを判別しています。住宅街の近くで行動している複数のクマを把握し、行動範囲を予測した結果から、クマの出没予告を住民に一定時間ごとに放送やスマートフォンで伝え、クマから身を守る（自衛する）ことに役立てられています。



さて、そのような技術革新が進む社会において人間の役割は何なのかと問い、子どもたちが今どんなことを学ばよいか様々な考えを巡らせています。これまで各教科の学習活動の中で、それぞれの単元や課題に応じてグループで学習することを取り入れてきました。机を合わせて話し合ったり、パッドを使用してICT機器の活用を織り交ぜて互いの考えや思いを交流することなどを、スムーズに進める子どもたちの姿が見られます。問いを生み出したり、問いに答えたり、意見を交流する中で他者の考え方に触れています。過去に行ったグループ活動のある学習活動に対する生徒アンケート結果の一部を紹介します。

- 自分の意見だけの狭い視野にとらわれず、他者の意見を聞いて様々な角度から物事を見ることができる。
- 他者の意見が自分を納得させたりした時が楽しい。
- お互いの意見交換から始まり、相手の意見を聞いたり、自分の意見をまとめるだけではなく、最後にはお互いが納得するような方法を導き出せる。

というのがひとつの考えです。一方で次のような考えもあります。

- グループで考えたとしても少ししかわかることはないし、自分で考える力が必要だと思う。
- グループの人の個性によってや、わかっている人とわかっていない人の差によって話し合いが進むこともあれば進まないこともある。
- 人と話すのがめんどうなので、あまり意欲的ではない。
- 自分で考えた方が早いと思うから、あまり好きではない。
- と■のそれぞれの考え方があるのだと思います。また次のような視点でも考えてみましょう。

世の中には「解」がひとつではないことが少なくありません。民族や宗教、国家間で紛争や戦争を起こしており、「なぜ憎しみあうのか？」という問いはあっても、解決の兆し（きざし）さえ見えないことも多くあります。AIとロボットと協働して未来社会を生き抜く可能性があるみなさんには、難題を粘り強く解きほぐすために、互いの顔を見て、自分の言葉で話してほしいと思います。他者との対話から学ぶ学習を通して、話し合うことが苦手だと感じたり、他者の考えに振り回されたり、他者の考えを押しつけられたりという経験も大切です。そのような中で様々な問いをもち、新たな解決策を探し出せるのは人間でしかないのであり、体験ができ活かせるのも人間だけです。**【良い問いは答えより重要】**だという数学者もいます。問いをもち、自分たちが互いに協力し合って答えを導き出せるのは、AIやロボットには現時点ではできないことです。日常生活の中に「良い問い」をもち、考える力をつけるために、様々な学習活動の中で探究活動を展開してほしいと願っています。



3年生 令和8年度全国学力・学習状況調査を実施！

文部科学省では全国の子どもたちの学力状況を把握するため、「全国学力・学習状況調査」を平成19年度から実施しています。本校の3年生を対象としてすでに実施し、4月20日（月）に英語の3技能「読む・書く・聞く」、23日（木）に国語と数学、24日（金）に英語の1技能「話す」が実施されました。国語と数学は従来通り冊子による筆記方式で実施し、英語はデジタル端末を使いオンラインで出題・解答するCBT方式が全面的に実施されました。今年度の調査では、全国すべての国立・公立小中学校と希望する私立の小中学校との計2万7867校が参加し、中学3年生と小学6年生全員を対象に実施されています。全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することもあります。自分自身の課題の把握や今後の指標としての結果を得ることができます。今後進路選択をし、入試等の取り組みを行う3年生の皆さんにぜひ心がけてほしいことが2つあります。

●今回の調査結果も含め、結果に対しては成果と課題を検証し、次のステップアップに繋げる。

●見直しと振り返りを行って、解けなかった問題の中から新たな発見をする。

今回の学力・学習状況調査から、自分自身のさらなる学習の充実や学習状況の改善に役立てる機会になります。調査結果については、文部科学省より7月中旬に公表されますが、個人結果の返却は校内分析を行った後、夏休み明けの2学期になります。



2年生 生き方探究・チャレンジ体験学習の取組！

2年生は、6月30日（火）～7月3日（金）までの4日間に、「生き方探究・チャレンジ体験学習」を実施する予定です。事業所での職場体験に先立ち、6月の総合的な学習の時間では、「チャレンジ体験事前職場訪問」などに取り組んでいきます。「生き方探究・チャレンジ体験」では、様々な職種の事業所の方々にお世話になり、**働くことの意義** **働くやりがい** **働く楽しさや苦労**などを実際に体験します。その体験の中で、自分の【人生】【将来】【生き方】について、より深く考えることがねらいです。自分が「地域や社会の一員」であることを実感し、地域の人たちが楽しく生活するためには、どんなことが必要なのかを考える力を身につけることもねらいとしています。この1か月後の4日間のために、多くの時間をかけて2年学年担当の教職員が中心となって準備を進められています。生徒の皆さんが積極的に取り組むことで、大きな成果が得られます。キャリア学習の一環として活動を深め、一回り大きく成長できると期待しています。「生き方探究・チャレンジ体験学習」の取り組みが、将来の自らの生活を支えていく【生きがいとしての仕事】につながり、夢や将来展望をもち、『このような仕事に就いて社会に貢献したい。』と実感できることがとても大切です。本校の教育目標である「自立・貢献・夢さがし」の実現に向けて、学習が活かされることを大いに期待しています。



6月は道徳教育推進月間です！

6月は道徳教育推進月間です。京都市立学校では道徳教育の充実を図ることが進められています。本校では5月29日（金）に行われた授業参観で、全学年の全学級で道徳が行われ、参観いただいた保護者の皆様に道徳の学習の展開を知っていただきました。道徳の時間は何をやる時間なのでしょうか？ 私は道徳の時間は、「お互いに今よりも、もっとよい生き方ができるように考え合う時間」だと思います。道徳の授業では「自分自身を大切にすること」「周りの人を大切にすること」「みんなで気持ちよく暮らすこと」「命あるものは素晴らしいこと」などについて、1年間じっくりと学ぶことができます。教科書の話を読み感想や考えを話し合ったり、登場人物を演じたりして考えてみることもあり、自分の考えがわかりやすくなるようにワークシートに書いて考えることもあります。大切なことは【振り返ること】であり、【前の時間と今日とでは考えが変わってきたな。】と感じたり、【4月の自分と比べて今の自分は、物事を見つめる眼（着眼点）が違うな。】と感じることや、自分の考えだけでなく、学級や学年の人たちの様々な考え方に触れるのが大切だと感じるのだと思います。

